

## 小田ワールドの温かな思い出

スポーツと健康コースコース長 西山哲郎

このたび退職される小田伸午先生は、神奈川県のお生まれで、中学、高校時代は陸上競技の三段跳びで活躍され、県で2位になられたこともあるそうです。ラグビーを始めたのは東京大学へ進学された後でしたが、院生時代にコーチとして創意工夫される姿が日本ラグビー協会の目に留まり、1983年から強化委員になられ、同時に日本代表のトレーニングコーチも務められました（1990年まで）。1984年からは京都大学で教職に就かれ、そこでも当然ながらラグビー部のコーチや監督を務められています。

その後も、2008年には北京五輪で金メダルに輝いたソフトボールチームに身体動作の指導をされたように、ラグビーだけでなく様々な競技のトップアスリートに有益なアドバイスを与えて来られました。スポーツの現場から実践に通じる学理を導く小田先生の研究姿勢は、ご著書やご講演を通じて数多くの支持者とフォロワーを生んでいます。

2011年に関西大学に移って来られてからも、体育会所属者が多い学部生たちに目の覚めるような示唆に富んだ授業を展開され、ゼミ生募集のたびに定員に倍する志願者が押し掛けてきました。キャンパスで寛いでおられるところに、学生が駆け寄り競技上のアドバイスを求める姿を私も何度か目にしましたが、先生のアドバイスは常に笑顔にあふれていて、話が終わる頃には学生も笑顔で帰っていったものです。

本学における小田先生のご貢献を考える上で、もうひとつ忘れられないのは研究科開設前後にご活躍いただいたことです。副学部長として文部科学省との事前折衝にご足労いただいたこともありがたかったのですが、設置初年度に定員を超える進学者を迎えることができたのは、温かな光で競技者を教え導く「小田ワールド」が学部広がっていたおかげでした。

先生が学部を去られた後、残された我々が「小田ワールド」のような安心と閃きを学生たちに与えるのは難しいことですが、それぞれにできることを伸ばし、違ったかたちで育てて行くしかないでしょう。それでも躓いてしまった時には、先生の笑顔と懐の深さを思い出し、軌道修正に努めようと思います。

小田先生、本学で11年間お勤めいただき、ありがとうございました。

